11ノーサイド・ゲーム（池井戸 潤）

―実業団ラグビーチームのゼネラルマネージャーとなったは、スタッフのと共に、新監督に迎えたいと願うとの交渉にのぞむ。……

　「社内でラグビー部はどう見られてる？」質問も的確だ。「正直、予算案を通すのはひと苦労だ。」（　Ａ　）から出任せをいっても仕方がないので、正直に君嶋は打ち明けた。「コストの塊だと酷評する役員も何人かいる。社長のラグビー愛に支えられている部分は大きい。」「いつ、廃部になるかわからない状況か。」隣にいる多英が椅子の上で身じろぎするのがわかった。柴門の鋭いしが、じっと君嶋を見据えてくる。

　「そこまで切迫してはいないが、成績が低迷すれば可能性はある。」柴門はなんとこたえるだろうか。企業スポーツにとって、廃部は最大のリスクだ。少しでも、その可能性の低いチームを率いたいと思うのは当然だろう。

　「強化方針を撤回するとか、そういう具体的な話は出たか。」「そこまではない。①すったもんだはあったが、予算案も満額通った。」そうか、と柴門はほっと息をいた。強化方針が撤回されれば、企業チームはあっという間に弱体化するからだ。「そちらが希望する契約の条件は。」［　Ⅰ　］直入に、柴門はきいた。「プロ契約で頼みたい。」と君嶋。「何年契約にするかは相談させてくれ。」「正直、それはどこまでのことを期待しているかによる。」逆に問われ、「優勝争いができるチームにしてほしい。」そうはっきりと君嶋はこたえた。

　「そして、できれば優勝したい。」じっと、柴門の（　Ｂ　）が君嶋を見据えている。

　やがて、「いつまでに。」そんな問いが発せられた。「できれば、三年以内に。」考える間が入る。柴門の前には、資料として渡した選手とスタッフのリストがあった。一旦②そこに視線を落とし、何かを考え、やがて（　Ｃ　）が上がって視線が君嶋に戻ってくる。その瞳に向かって、君嶋は頼み込んだ。「引き受けてくれないか。ウチには柴門、お前の力が必要なんだ。この通りだ。―頼む。」③息を詰めた多英が、柴門のこたえを待っている。さらに思案した柴門が口にしたのは、「三年は長すぎるな。」というひと言だ。「二年契約にしてくれ。二年で優勝争いができるチームにする。だが、優勝までは約束できない。優勝を争うチームと、本当に優勝するチームにはかなりの差がある。④そこまでできるかどうかはわからない。」「わかった。他に条件は。」「地域密着型のチーム運営をしたいという意思は尊重するし、それに選手を駆り出すのはかまわん。だが、練習方法とかに口出しは一切せず、まかせてほしい。もし口出ししたら、その時点でオレは降りる。」「わかった。」

問１　（　）Ａ〜Ｃに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　目　　イ　耳　　ウ　口　　エ　顔

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

問２　―線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　ののしり合い　　イ　ごたごたしたもめごと

ウ　だまし合い　　　エ　暴力沙汰

問３　［　］Ⅰに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　端刀　　イ　単刀　　ウ　担刀　　エ　胆刀

問４　―線部②･④の「そこ」が指す事柄を文中からそれぞれ抜き出して答えよ。

②＝〔　　　　　　　　〕　④＝〔　　　　　　　　〕

問５　―線部③はどんな気持ちからの行動か。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　緊張して　　イ　期待して

ウ　恐れて　　　エ　予定を考えながら

問６　君嶋と柴門が了解し合った「契約」の要点を、四〇字以内で具体的に述べよ。

〔

　　　　　　 〕

【解答】

問１　Ａ＝ウ　Ｂ＝ア　Ｃ＝エ

問２　イ

問３　イ

問４　②＝リスト

　　　④＝優勝

問５　ア

問６（例）二年のプロ契約で、優勝争いができるチームにする。柴門の練習方法に口出ししない。（39字）

ポイント

問１　口から出任せ＝言いたい放題の噓。